

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立津山工業高等学校		
実践者等	森内 謙	実践日	令和3年4月16日~7月2日
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	芸術科(美術I) 単元全体の学習過程の記録		
対象生徒(学年等)	建築科、土木科、工業化学科、デザイン科1年		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	色面構成(自分の顔を色で分割し、色の性質を知る)		
使用したアプリ等	スライド、Classroom		
実践の概要(ねらい等)	制作過程の中で作品を撮影し、「スライド」にまとめ、学びの内容をポートフォリオ化する。このスライドをプロジェクターで提示することで学びのプロセスの多様性をクラス全体で共有する。		
実践の内容			
<p>プロセスフォリオの作成(実際の生徒によるプロセスフォリオ) この実践では学びのプロセスをまとめているため、「プロセスフォリオ」と呼ぶ。</p>			
<p>① 生徒本人が今から作ろうとしている作品の仮のタイトルを考え、記入。</p>	<p>仮のタイトル:「寒」 理由:少し寒かったから。</p>		
<p>② 毎回の授業で作品を撮影し、スライドに保存。この時、「自分が気付いたこと」、「他の生徒・教員から指摘されたこと」を記入。生徒はプロセスフォリオのデータを基に制作を改善していく。このデータは制作過程の途中でもプロジェクターを通してクラス内で共有するため、進度が遅れている生徒は進度の早い生徒の作品の状態を見て、制作方法を参考にすることもできる。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>●自分が気づいたこと・感じたこと 色を塗るのが大変だと感じた。</p> <p>●教員と他の生徒が気づいたこと・感じたこと</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>●自分が気づいたこと・感じたこと 人になってきた。</p> <p>●教員と他の生徒が気づいたこと・感じたこと 細かい。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自分が気づいたこと 真顔に見える</p> <p>教員と他の生徒が気づいたこと</p> </div> </div>		
<p>③ 最後のページに完成作品の写真、発表内容(30字程度)を記入し、完成した作品のタイトルを記入(作品の制作前と後での本人の成長を意識させるため)。このページを見ながら学習過程全体を振り返りながら作品発表する。</p> <p>仮のタイトル「寒」 ⇒完成作品タイトル 「新しい環境」</p>	<p>完成作品タイトル「新しい環境」 ●発表内容(表現したかったこと。このタイトルにした理由。)</p> <p>高校に入学して何週間か不安だったのでその時の心情を表現した。 寒色を使ったかったので青色で塗った。 不安そうな顔をしていたからこのタイトルにした。</p>		
<p>※生徒本人には作品掲載の許可を得ている。</p>			
参考となるHP等	<p>「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践—内なる知性とクリエイティビティを育むハーワード・ガードナーの教育戦略」池内 慈朗(著)2014</p>		